

2023年度 三草山ゼフィルスの森 保全事業計画

1 三草山ゼフィルスの森保全検討会議の開催（継続）

3回程度の検討会議の開催を予定する。追加審議が必要な事案が発生した場合は、追加で検討会議を開催する。

開催時期	内容
4月	2022年度活動報告確認、2023年度活動方針（案）承認
7月	3ヵ年事業計画審議
9月	3ヵ年事業計画承認

2 3ヵ年事業計画の策定（新規）

2023年度~2025年度の3ヵ年事業計画を策定する。

7月の検討会議で素案を審議し、9月に承認を得る。

※資料末に3ヵ年事業計画項目（案）を記載。

3 保全作業【森の更新・管理など】

（1）萌芽更新施業の実施（継続）

3ヵ年事業計画で計画する場所での施業を1月から2月にかけて実施する。

（2）山腹崩壊修復地の植生再生方法の検討（継続）

2018年度に発生した大規模な山腹崩壊地の植生回復状況について、モニタリングを実施し、結果を踏まえて大阪府が行う工事終了後の植生再生方法について検討する。
モニタリングは、植物の展葉期にドローンによる空中撮影と地上植生調査を行う。

（3）広葉樹苗育成（再開）

今後伐採地や山腹崩壊地等に植樹することを目標に、前年度に採取したドングリおよび秋に採取するドングリを用いて苗づくりを行う。苗づくりに際しては、ささゆり学園（能勢町立小中一貫校）をはじめ、能勢町内の教育施設などに協力を求める。

（4）ボランティア保全活動（継続）

例年通り、ボランティア定例活動で行われる次の団体に対して、支援を行う。

対象団体：

①能勢みどりすとクラブ

支援内容：活動への助成

②能勢の里山を繋ぐ会

支援内容：活動地と施設等の提供

上記2団体による活動内容例：

- ・防火帯刈払い（ゼフィルスの森外周）
- ・防鹿柵内坪刈り
- ・芽かき
- ・神山進入路補修（石畳づくり）
- ・登山道・林内整備、防鹿柵メンテナンス
- ・萌芽更新施業（ほだ木、薪づくり）
- ・針葉樹林整備
- ・タガメの田づくり活動地保全活動（草刈り・苗畑管理など）
- ・その他

4 調査など

(1) ゼフィルス類等チョウ類の生息状況調査（継続）

- ・ゼフィルス類等チョウ類のモニタリング調査（継続）

日本鱗翅学会近畿支部・大阪公立大学と連携し、6月中旬（6月10日予定）に実施する。

(2) ゼフィルスの森蜂類調査（新規）

大阪公立大学上田昇平准教授によるゼフィルスの森における蜂類調査を支援する。

(3) 防鹿柵の防除効果調査（継続）

大阪公立大学藤原宣夫教授による、以下の調査を支援する。

- ①防鹿柵による林床植生の保護効果に関する調査（継続）

2015年から実施している15m×15mの調査区（防鹿柵内2カ所、柵外1カ所）で、植生調査を実施する。

- ②ネザサ地掻きモニタリング調査（継続）

(4) タガメの田づくり活動地水生昆虫調査（継続）

大阪公立大学上田昇平准教授によるタガメの田づくり活動地における水生昆虫調査を支援する。

(5) タガメの田づくり活動地耕作放棄地での水田再生の研究（継続）

大阪公立大学築瀬雅則助教によるタガメの田づくり活動地における水田再生の研究を支援する。築瀬助教には、タガメの田づくりで使用する稲苗の提供およびイベント実施時の講師としてご協力いただく。

5 普及啓発

(1) 三草山における環境教育（継続）

①近隣の学校による実践

ささゆり学園（能勢町立小中一貫校）、関西大学第一中学校などが三草山ゼフィルスの森やタガメの田づくり活動地を利用して実施する環境教育に協力する。

②都市部の子どもたちに対する実践

企業 CSR 活動等で都市部から子どもたちが訪れる機会を利用して、専門家による森で楽しみながら自然を体感して学べるプログラムを実施する。

(2) 案内看板の維持管理（継続）

老朽化しているものや情報が古くなった看板を撤去・交換・更新する。看板更新については企業からの支援を受けて実施する。（別紙添付）

(3) 観察会の開催（継続）

例年実施しているゼフィルス観察会を実施する。

日程：6月18日（日）

(4) ハイキングなどの開催（継続）

多くの方に三草山に訪れてもらうため、前年度に引き続きゼフィルスの森を知らない方を対象に、長谷の棚田や才の神峠といった能勢の歴史を体感できる内容のハイキングを実施し、自然環境豊かなゼフィルスの森の生物多様性保全に興味を持つ機会をつくる。

日程：11月下旬

(5) タガメの田づくりイベント（継続・一部新規）

今年度は例年三草山のふもとのタガメの田づくり活動地で行っている3回のイベント（田植え、稲刈り、里の冬支度）に加えて、稲苗づくりイベントを実施する。イベント参加者に対して、ゼフィルスの森の紹介をし、森と水田などふたつの環境が必要な動物などの例を挙げながら里地里山一体で保全活動の必要性を伝える。

(6) 勉強会・意見交換会（新規）

今年度上期中に、有識者や地元の方々を交え、三草山ゼフィルスの森の生物多様性の勉強会を行い、三草山の活用について意見交換を行う機会を設ける。

(7) 他団体が三草山ゼフィルスの森を活用して行うイベントのサポート（継続）

企業等による CSR 活動への支援、メディア取材への対応、ハイキングへの講師派遣等を行う。

6 その他

(1) 巡回活動（継続）

地元住民（4名）に委嘱し、巡回活動を実施する。

(2) 地上権料支払 (継続)

地権者に対して地上権料を支払う。

(3) 能勢町との連携 (継続)

観察会やハイキングなどのイベントを行う際には、能勢町観光協会や、能勢の里山活力推進協議会に協力をあおいで広報などを行い、都市部の市民にも参加を呼びかける。また、イベント実施時には能勢町が作成した環境学習ツール(冊子)を活用する。

【参考】3ヵ年事業計画について

三草山ゼフィルス森は14.48haの広がりを持ち、必要な保全管理の内容は多岐に渡っている。限られた予算や人的な資源を活かしてより効率的・効果的に保全管理を進めるためには、これまでの単年度ごとの計画では不十分で、中期的な計画を策定し、関係者が共有することが求められる。

特に、薪炭林として利用され人の手によって維持されてきた雑木林を、生物多様性豊かな状態で後世に引き継ぐために、萌芽更新を毎年計画的に実施することが求められる。あわせて、2018年度に発生した南西斜面の山腹崩壊地の復旧工事が2023年度に完了するため、工事終了後の植生再生を計画的に進める必要がある。

また、保全活動を持続的に行うためには、三草山ゼフィルス森に関心を持ち、関わる人を増やしていく必要がある。地元住民、都市住民、子どもたちなど、対象に合わせた普及既発の取り組みや、人々を惹きつける新たな方策(観光資源の掘り起し・散策ルートの開発など)の検討が必要である。

中期3ヵ年事業計画の構成案は以下の通り。

3ヵ年事業計画 項目(案)

○保全管理の基本的な考え方

○保全作業

- ・保全作業の基本的な考え方
- ・萌芽更新
- ・山腹崩壊地植生回復
- ・広葉樹苗育成・植樹
- ・防鹿柵の設置、移設
- ・順応的管理(人工林の広葉樹林化、伐採木の有効活用、防鹿柵の管理、巡回の実施)

○調査など

- ・調査の基本的な考え方
- ・ゼフィルス類等チョウ類の生息調査
- ・その他(専門家と相談の上実施する調査・研究など)

○普及啓発

- ・普及啓発の基本的な考え方
- ・地元住民を対象とした普及啓発（勉強会・意見交換会の開催）
- ・都市住民を対象とした普及啓発（観察会・イベントの開催）
- ・子どもたちを対象とした普及啓発（森林環境教育の推進）
- ・周辺を含めた魅力向上策（観光資源の掘り起し・散策ルートの開発など）
- ・案内看板の維持管理